

令和3年度

萌える天北オロロンルート 活動報告

1. ルート運営活動計画の進捗状況
2. 活動団体の活動状況及び課題
3. ルート運営活動計画の推進体制の状況及び課題
4. ルート運営行政連絡会議の取組状況及び課題

1. ルート運営活動計画の進捗状況

ルート名称: 萌える天北オロロンルート	報告者:代表 西 大志	報告年月日:2022/3/31
---------------------	-------------	-----------------

	ルート(エリア)運営活動計画方針	ルート(エリア)運営活動計画活動内容	R3					
			活動名	主催	活動実施日	参加人数	活動状況資料番号	総括
景観	愛着と誇りを持てる郷土の景観の保全と創出	風景との出会いの演出	フィルムコミッションから学ぶ新たな観光開発事業(フォトコンテスト作品展示)	-	-	-		景観形成についての総括 ・今年度で8回目となった道北ルートで連携フォトコンテストは、過去のフォトコン作品を活用しフォトブックが発行された。課題として、フォトコン作品の活用や資金調達などがある。 ・秀逸な道や船場公園周辺で、清掃・除草活動を実施した次年度も継続して活動し、徐々に活動の輪を広げていく予定である。 ・秀逸な道の選定区間への申請に向けた検討を引き続き進める。
			送り火フォトコンテストの開催	-	-	-		
			シーニックバイウェイ道北ルート連携フォトコンテスト	シーニックバイウェイ道北ルート連携フォトコンテスト実行委員会	令和3年6月1日～9月30日 (応募期間)	23人(主催者側)/応募者数44人・応募作品数348作品	A - 2	
			景観診断プロジェクト	-	-	-		
			菜種・ヒマワリクリーンエネルギープロジェクト	-	-	-		
			るもい地域の観光・まちづくりの未来を語る勉強会(6.18石田先生PJ)	-	-	-		
			日本道路会議(ルート副代表がパネリストとして参加)	-	-	-		
			風景街道テーマ別意見交換会(風景街道の意見交換会に参加)	-	-	-		
			シーニックカフェの登録・カフェ連携	萌える天北オロロンルート運営代表者会議	通年	8人		
			船場公園での除草・物販・啓発活動(道路協力団体)	萌える天北オロロンルート運営代表者会議	悪天候のため未実施	-		
			秀逸な道清掃プロジェクト	萌える天北オロロンルート運営代表者会議	悪天候のため未実施(景観診断は実施)	12人	A - 1	
		花とみどりの景観づくり	エゾカンゾウ植栽プロジェクト	-	-	-		
			菜種・ヒマワリクリーンエネルギープロジェクト	-	-	-		

1. ルート運営活動計画の進捗状況

ルート名称: 萌える天北オロロンルート		報告者:代表 西 大志						報告年月日:2022/3/31
	ルート(エリア)運営活動計画方針	ルート(エリア)運営活動計画活動内容	R3					
			活動名	主催	活動実施日	参加人数	活動状況 資料番号	総括
			萌天の森プロジェクト	—	—	—		
		愛着と誇りの醸成	景観診断プロジェクト	—	—	—		
食	自然の恩恵である地元食材のブランド化と魅力の発信	地場産品の魅力づけ	ひらめ底建網オーナープロジェクト (食材オーナー制度プロジェクト)	—	—	—		食についての総括 ・今年度は、食をテーマとした活動は実施しなかった。 ・今後は、活動のテーマ自体も含めて、方向性を検討していく予定である。
			萌天焼の開発プロジェクト	—	—	—		
		新メニューの企画	ひらめ底建網オーナープロジェクト (食材オーナー制度プロジェクト)	—	—	—		
			萌天焼の開発プロジェクト	—	—	—		
		地域ブランドの構築	ひらめ底建網オーナープロジェクト (食材オーナー制度プロジェクト)	—	—	—		
			ワークショップの開催	—	—	—		
			チカホでのシーニックPRイベントにて地域特産物の販売実施	—	—	—		
			萌天焼の開発プロジェクト	—	—	—		
			情報受発信プロジェクト ⑤ ～萌か留た～	—	—	—		

1. ルート運営活動計画の進捗状況

ルート名称: 萌える天北オロロンルート		報告者:代表 西 大志					報告年月日:2022/3/31	
	ルート(エリア)運営活動計画方針	ルート(エリア)運営活動計画活動内容	R3					総括
			活動名	主催	活動実施日	参加人数	活動状況 資料番号	
環境保全	地球に優しい「くらしぶり」のお手本づくりと促進	クリーンエネルギーのイメージづくり	菜種・ヒマワリ クリーンエネルギープロ ジェクト	-	-	-		環境保全についての総 括 ・今年度も、ゴミ対策とし て、清掃活動や除草など の活動を実施する予定で あったが、悪天候のため 中止となった。今後は、 活動の時期や内容につ いて再検討しながら、次 年度も活動を展開する予 定である。
			フォーラム開催プロジェ クト	-	-	-		
			風景街道サミットinあさ ま(ルート代表がパネ ルディスカッションに参 加)	-	-	-		
			萌天の森プロジェクト	-	-	-		
		ゴミ対策の取り組み	船場公園での除草・物 販・啓発活動(道路協 力団体)	萌える天北オロロンル ート運営代表者会議	悪天候のため未実施	-		
			秀逸な道清掃プロジェ クト	萌える天北オロロンル ート運営代表者会議	悪天候のため未実施 (景観診断は実施)	12人	A - 1	
		身近な生態系の保全・復元	エゾカンゾウ植栽プロ	-	-	-		
			萌天の森プロジェクト	-	-	-		
			天塩イトウシンポジウ ム(共催)	-	-	-		
			天塩川でつなぐ・ひろが るプロジェクト	-	-	-		

1. ルート運営活動計画の進捗状況

ルート名称: 萌える天北オロロンルート		報告者:代表 西 大志				報告年月日:2022/3/31			
			R3						
	ルート(エリア)運営活動計画方針	ルート(エリア)運営活動計画活動内容	活動名	主催	活動実施日	参加人数	活動状況資料番号	総括	
レクリエーション	暮らしに根ざしたもてなしによる暖かい交流の魅力づくり	ロングドライブのサポート	景観診断プロジェクト	-	-	-		レクリエーションについての総括 ・レクリエーションの活動については、シーニックカフェとの連携による情報発信の展開に取り組むとともに、オロロンライン・サイクリスト応援プロジェクトについては、応援カーの出発式・苫前商業高校との連携等活動内容が充実してきた。今後も継続的で発展性の活動を展開していく。	
			フォーラム開催プロジェクト	-	-	-			
			風景街道サミットinあさま (ルート代表がパネルディスカッションに参加)	-	-	-			
			萌天の森プロジェクト	-	-	-			
			情報受発信プロジェクト ⑤ ～萌か留た～	-	-	-			
			シーニックカフェの登録・カフェ連携	萌える天北オロロンルート運営代表者会議	通年	8人			
		身近なアウトドアの紹介	サイクリングイベントの周知協力活動	-	-	-			
			オロロンラインサイクリスト応援プロジェクト	萌える天北オロロンルート運営代表者会議	通年	-	A - 3		
		各種カルチャー活動による交流	フィルムコミッションから学ぶ新たな観光開発事業(フォトコンテスト作品展示)	-	-	-			
			流雪溝雪はねボランティア ツアーin苫前	-	-	-			
			エゾカンゾウ植栽プロジェクト	-	-	-			
			菜種・ヒマワリクリーンエネルギープロジェクト	-	-	-			
			よりみちの駅イベントでのシーニックPRイベント	-	-	-			
			ダウン・ザ・テッシン＆石田先生招聘プロジェクト	-	-	-			

1. ルート運営活動計画の進捗状況

ルート名称: 萌える天北オロロンルート			報告者:代表 西 大志				報告年月日:2022/3/31		
			R3						
	ルート(エリア)運営活動計画方針	ルート(エリア)運営活動計画活動内容	活動名	主催	活動実施日	参加人数	活動状況 資料番号	総括	
			エコ・ツーリズムセミナー	-	-	-			
歴史・文化	先代の暮らしがりと新たな価値観を将来に伝え楽しむ	歴史資源の保全と活用	ワークショップの開催	-	-	-		歴史・文化についての総括 ・歴史・文化に関する活動としては、フォトコン作品の展示を実施した。留萌地域での暮らしがりに ついて、写真を通して伝えることができた。 ・歴史・文化を主眼とした 取組み自体は実施してい ないが、今後、他の活動 の拡大などを通して実施 できればと考えている。	
			情報受発信プロジェクト ⑤ ～萌か留た～	-	-	-			
		次世代への歴史伝承	-	-	-	-			
		独自の生活文化の発見	フィルムコミッションから 学ぶ新たな観光開発事 業(フォトコンテスト作品 展示)	-	-	-	-		
			送り火フォトコンテスト の開催	-	-	-	-		
			シーニックバイウェイ道 北ルート連携フォトコンテスト	シーニックバイウェイ道 北ルート連携フォトコンテスト 実行委員会	令和3年6月1日～9月30 日 (応募期間)	23人(主催 者側)/応募 者数44人・ 応募作品数 348作品	A - 2		
全体	上記内容全体の方針に関わる活動	情報受発信プロジェクト ① ～冊子:Eezo～	-	-	-		地域づくりについての総 括 ・道をきっかけとした活動 の展開など、ルート運営 活動計画の見直しを着手 することで、今後の活動 内容の方向性を検討して いく。		
		情報受発信プロジェクト ② ～オロロンマップの活 用～オロロンさんぽみ	-	-	-				
		情報受発信プロジェクト ③ ～道の駅・シーニックカ フェスタンプラリー～	-	-	-				
		情報受発信プロジェクト ④ ～オロロンドライブ情報	-	-	-				
		情報受発信プロジェクト ⑤ ～萌か留た～	-	-	-				

1. ルート運営活動計画の進捗状況

ルート名称: 萌える天北オロロンルート			報告者:代表 西 大志					報告年月日:2022/3/31
	ルート(エリア)運営活動計画方針	ルート(エリア)運営活動計画活動内容	R3					
			活動名	主催	活動実施日	参加人数	活動状況 資料番号	総括
			情報受発信プロジェクト ⑥ ～留萌管内観光アンケート～	-	-	-		
			ルートFacebookの運用	萌える天北オロロンルート運営代表者会議	通年	-		
その他			道の駅るもい等の活性化に向けた有識者視察					風景街道大学オンラインセミナー「道路管理者と風景街道」にて、ルート事務局長が登壇し、道路管理と風景街道活動の新しい連携協働のあり方について議論した。
			フィルムコミッションから学ぶ新たな観光開発事業(フォトコンテスト作品展示)	-	-	-		
			風景街道大学オンラインセミナーでの登壇	萌える天北オロロンルート運営代表者会議	令和3年9月28日	聴講者80名程度	A - 7	

萌える天北オロロンルート

Moeru Tempoku Ororon Scenic Byway

活動名：秀逸な道清掃プロジェクト

- 【概要】 ルート内の秀逸な道として、平成30年度から清掃活動に取り組んでいる。令和3年度からの秀逸な道の本格運用に伴い、当該区間が選定候補区間に登録されたことから、清掃活動に併せて景観診断も行った。（悪天候により清掃活動は中止）
- 【日時】 令和3年10月4日 13:30～15:30
- 【場所】 国道232号沿い（秀逸な道選定候補区間）
- 【主催】 萌える天北オロロンルート運営代表者会議
- 【協力】 留萌開発建設部
- 【参加人数】 12名



景観診断の様子



今後

風車のセットバックを受け、
区間延長や景観改善実
施メニュー案の更新を行
う。

萌える天北オロロンルート

Moeru Tempoku Ororon Scenic Byway

活動名：道北ルート連携フォトコンテストの開催

【概要】大雪・富良野ルート、宗谷シーニックバイウェイ、天塩川シーニックバイウェイの道北4ルートによる、ルートを跨いだフォトコンテストを実施した。今年度で8年目の開催で、過年度の受賞作品については、管内巡回パネル展示を実施している。

【応募期間】令和3年6月1日～9月30日

【主催】シーニックバイウェイ北海道 道北ルート連携フォトコンテスト実行委員会

7/4～8/3	8/19～9/1	9/1～10/1	10/1～10/27	10/27～	12/16～1/7
お勝手屋 萌 (留萌)	道の駅 てしお	道の駅 えんべつ富士見	道の駅ロマン街道☆ しょさんべつ	道の駅 おびら鯨番屋	道の駅 ほっと♡はぼろ
			写真なし		

令和3年受賞作品



グランプリ賞
『早春の逆さ富士』



萌える天北オロロンルート賞
『雷鳴響く』



入選
『夕暮れに燃える海岸鳥居』



入選
『早春の小平』

萌える天北オロロンルート

Moeru Tempoku Ororon Scenic Byway

A-3

活動名：オロロンライン・サイクリスト応援プロジェクト（全体像）

【概要】 令和元年度からの継続事業として、今年度は「オロロンライン・サイクリスト応援プロジェクト（浸透期）」と位置づけ、過去2カ年のサイクリスト受入環境整備の成果を拡大成長させることと同時に、管内サイクリストや地元高等学校などの他団体との連携を強化。引き続きに本取組の成果を管内に浸透させつつ、今後の管内のサイクルツーリズムの振興の足掛かりを築くことを目的とする。

	取組メニュー	令和2年度までの実績	令和3年度の目標
継続メニュー	手ぶらサイクルの検討（地元バス事業者との協議）	「手ぶらサイクリング」の実現に向け、地元バス事業者との打合せ（コロナ禍のため協議中断中）	地元バス事業者との打合せの再開
	サイクリスト・応援カーの試行実施	管内道路維持業者7社の道路パトロールカーに、自転車用空気入れと工具搭載	取組のモチベーションアップのために「サイクリスト・応援カー出発式」を開催 ⇒7/13実施 済
	オロロンライン・サイクルステーションの設置・拡大	管内3箇所で自家製サイクルラックをワークショップ型式にて作成。管内道の駅・シーニックカフェ等へ配布（配布先を「オロロンライン・サイクルステーション」として指定）	管内の除雪ステーションを「オロロンライン・サイクルステーション」として指定 ⇒10/25霧立除雪STに設置 済
	バイクホテルの設置・拡大	天塩町内宿泊施設にて、室内サイクルラックを設置	留萌中部・南部に1箇所ずつ設置する 済
新規メニュー	管内サイクリストの巻き込み	-	管内サイクリストによる自転車乗り方講座を開催する⇒7/27実施
	管内の新しいサイクリングの楽しみ方の提案	-	管内の新たなサイクルルートを開発するため、試走調査を行う⇒7/27～7/29実施 済

萌える天北オロロンルート

Moeru Tempoku Ororon Scenic Byway

A-4

活動名：オロロンライン・サイクリスト応援プロジェクト
(サイクリスト・応援カー出発式)

- 【概要】管内の国道等の道路パトロールカーに空気入れや自転車用工具セットを搭載する取組みを令和2年度から試行的に実施しており、令和3年度の本格運用にあたり本取組の気運を高めるため、『「サイクリスト・応援カー」出発式』を開催する。
- 【開催日】令和3年7月13日（水）（感染症拡大予防の観点から5/12から延期）
- 【開催場所】留萌開発建設部 羽幌道路事務所
- 【主催】萌える天北オロロンルート
- 【協力】維持ネットワーク協議会留萌支部（管内国道維持業者7社）



出発式の様子

続報

河川パトロールカーでも
取り組みがスタート
(天塩大橋～天塩川河口)



萌える天北オロロンルート

Moeru Tempoku Ororon Scenic Byway

A-5

活動名：オロロンライン・サイクリスト応援プロジェクト
(苫前商業高校ツーリング事業への協力)

【概要】 苫前商業高校と苫前町教育委員会による自転車ツーリング事業とタイアップすることで、隠れた管内のサイクリングコースをライト層からの視点から発掘する。また、本事業協力において管内サイクリストをガイド・指導者として参画していただくことで、管内サイクリストとの接点も増やしていく。

【開催日】 令和3年7月27日(火)～29日(木)

【主催】 苫前商業高校・苫前町教育委員会

【協力】 萌える天北オロロンルート

参加者：苫前商業高等学校

高校生9名 教員等4名

ガイド：管内サイクリスト 中村吏季氏

サポートカー：森本事務局長・小寺氏

行程：

Day1 苫前商業高校(苫前町古丹別)出発式

※中村氏による自転車の乗り方講座付き

→小平→留萌→沼田→妹背牛→深川

Day2 深川→幌加内

Day3 幌加内→霧立除雪ST→苫前商業高校安着式



※全長 約220km



萌天ルート
秀逸な道選定候補区間



天塩川SBW秀逸な道区間



萌える天北オロロンルート

Moeru Tempoku Ororon Scenic Byway

A-5

活動名：オロロンライン・サイクリスト応援プロジェクト
(苫前商業高校とサイクルラックづくり)

【概要】 苫前商業高校との自転車ツーリング事業でのタイアップを契機に、留萌地域の活性化事業の一環として、管内のサイクルツーリズムを振興を目的にサイクルラックを製作し、主に苫前町内の観光施設や立寄施設に設置する。

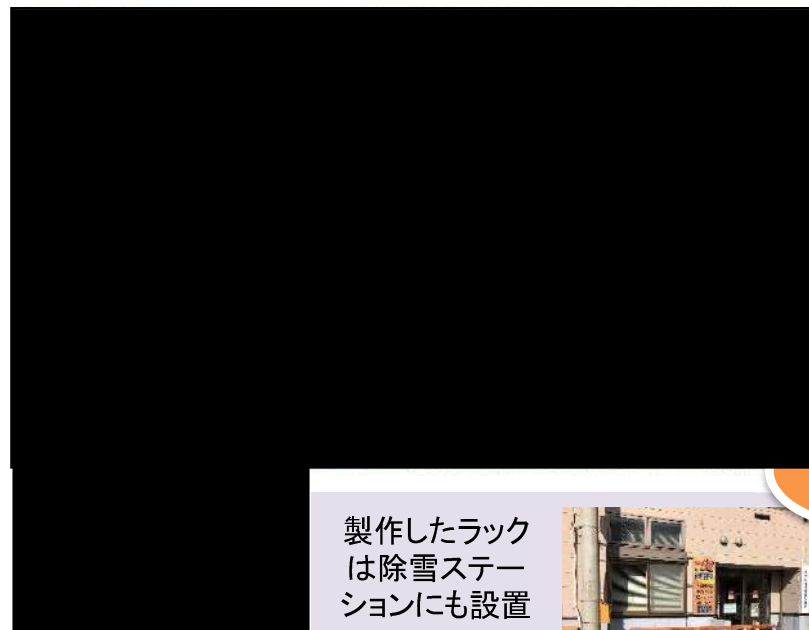
【開催日】 令和3年10月5日(火)

【主催】 萌える天北オロロンルート・苫前商業高校・苫前町教育委員会

【参加者】 苫前商業高等学校高校生・教員等、留萌開発建設部、東北建設、北海道教育庁留萌教育局



サイクルラックづくりと
サイクルラック設置箇所を検討するワークショップの様子



続報

製作したラック
は除雪ステー
ションにも設置



萌える天北オロロンルート

Moeru Tempoku Ororon Scenic Byway

活動名：オロロンライン・サイクリスト応援プロジェクト
(サイクリスト・応援カー 2021シーズン終了に伴う意見交換会)

【概要】 2021年サイクリングシーズンが終了するため、次シーズンの活動に向けた今シーズンの振り返りをする意見交換会の場を設けた。

【開催日】 令和3年11月12日（金） 13:30～15:00

【参加者】 維持ネットワーク協議会留萌支部に加入する7社（清野建設さん除く）、留萌開発建設部

●意見交換会

- ・フロアポンプの利用者は和歌山県の年配のソロキャンパーで、強風に煽られパンクをした。フロアポンプを貸したお礼に手紙をもらった。
- ・サイクリストが休憩する立ち寄り施設（道の駅やコンビニなど）で「応援カー」の取組を周知すればどうか？
- ・おもてなしのクオリティを上げるため、サイクリストの気持ちを知る勉強会など有益では？この取組に観光系の方にも入っていただくのはどうか？
- ・ステッカーを多言語化するのではどうか？また、インバウンド対応として指差し案内板もあってはどうか？
- ・取組を案内するメッセージカードを渡す。#9910も入れる。
- ・取組を案内するのぼりなどもあるとよい。
- ・応援カーやサイクルステーションをインターネット上で紹介するのはどうか？
- ・来年度の出発式は、道路清掃などが完了する見込みであるGW明けの開催が望ましい。

●オロロンライン応援カー利用状況調査(2021シーズン) 結果

	フロアポンプ利用者数	自転車用工具セット利用者数	応援カーでサイクリストのサポートをした回数	利用者からの要望や課題
7月	0	0	0	0
8月	1	0	1	0
9月	1	1	1	フロアポンプを持参していたが経年劣化しており使用出来なかったがポンプを借りれたのは大変助かった。(瀬越組)
10月	0	0	0	0



萌える天北オロロンルート

Moeru Tempoku Ororon Scenic Byway

A-7

活動名：風景街道大学オンラインセミナーでの登壇

【概要】風景街道大学オンラインセミナー「道路管理者と風景街道」にて、ルート事務局長が登壇し、道路管理と風景街道活動の新しい連携協働のあり方について議論した。

【開催日】令和3年9月28日（火） 14:00～16:00

【開催場所】リモート会議

【主催】NPO法人日本風景街道コミュニティ

NPO 法人日本風景街道コミュニティ

vol. 4 連続オンラインセミナー

テーマ 道路管理者と風景街道

「道路管理者と風景街道」というタイトルで、現状と課題認識の共有化を踏まえて、道路管理と風景街道活動の新しい連携協働のあり方について議論します。

日時 令和3年9月28日（火）14:00～16:00

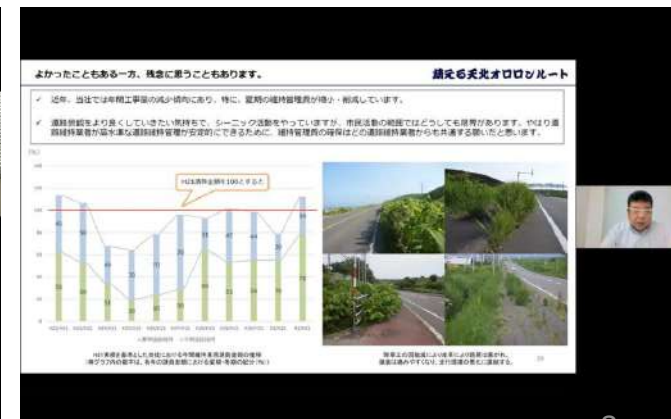
本セミナーは事前登録が必須です。以下から事前登録をお願いします。
登録時にお名前、ご所属等をご入力いただきます。

クリック <https://www.eventyomi.com/event/2021/09/28/1400-1600>

日本風景街道コミュニティ 14:00-16:00

1. 開会
2. 本セミナーの趣旨説明
3. 話題提供(40分)
 - 「(仮)理念共同体で生み出す地域の道路空間価値」
元宮崎県・日南海岸地域シーニフパイウェイ推進協議会 顧問 中村 安男 氏
 - 「(仮)日本風景街道における道路管理者と地域の連携協働の取組み事例」
国土交通省 道路局 環境安全・防災課 沿道環境専門官 柴田 芳雄 氏
4. パネルディスカッション(70分)
 - 「(仮)日本風景街道における道路管理者との連携の強化・充実に向けて」
ファシリテーター:NPO法人日本風景街道コミュニティ 代表理事 石田 康生
パネリスト:NPO法人日本風景街道コミュニティ 理事/日本風景街道「のしろ白神の道」事務局 渡辺 千明
萌える天北オロロンルート運営代表者会議事務局長/北海道維持管理ネットワーク協議会 留萌地区 事務局長 森本 昌己 氏
(前 掲) 中村 安男 氏
(前 掲) 柴田 芳雄 氏
6. その他
7. 閉会

お問合せ NPO法人日本風景街道コミュニティ事務局(一社法人北海道環境センター 1階12号)
E-mail:shibazaki@decnet.or.jp TEL:011-738-3363 FAX:011-738-2899

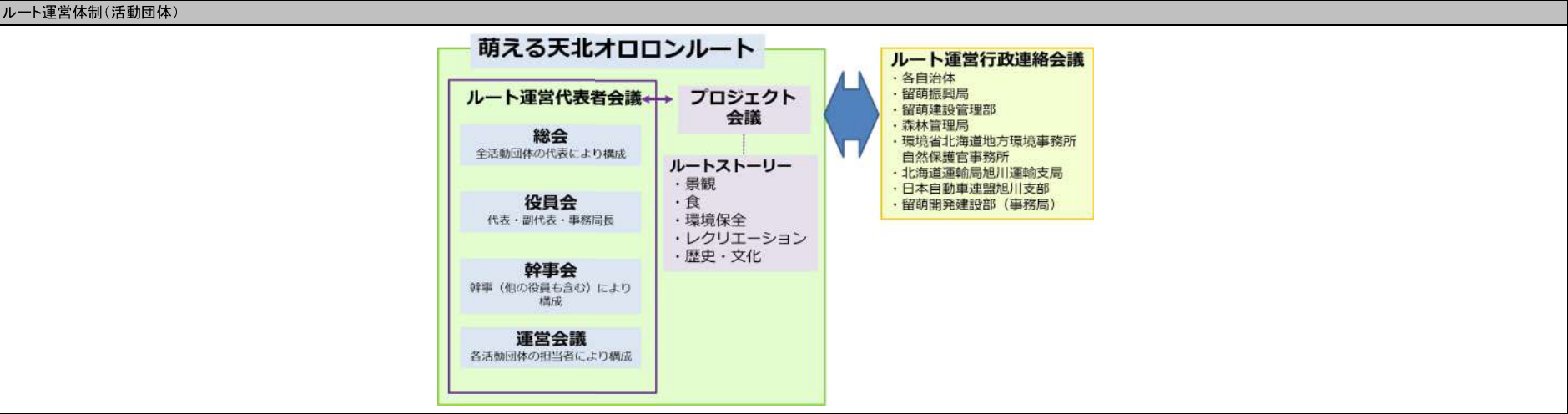


オンラインセミナーの様子

3. ルート運営活動計画の推進体制の状況及び課題

ルート名称: 萌える天北オロロンルート	報告者: 萌える天北オロロンルート 代表 西 大志	報告年月日: 2022/3/31
---------------------	---------------------------	------------------

活動団体
増毛町観光協会、豊かな森川海人をつくる増毛実行委員会、一般社団法人留萌青年会議所、NPO法人留萌観光協会、小平町観光協会連合会、小平町商工会、NPO法人天塩川を清流にする会、萌天サポーターズクラブ、苫前町まちづくり企画、桜並木を作る会、一般社団法人マッチワークス 全11団体



	基本方針	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
	ルート運営代表者会議(総会)			● 6/15										ルート運営代表者会議(総会)はコロナ禍のため、書面総会を実施。このほか、事務局打合せを適宜実施。
	役員会	● 4/8				● 8/23				● 12/13			● 3/17	
	幹事会	● 4/22				● 8/24				● 12/23				
	運営会議	● 4/22				● 8/24				● 12/23				
	その他会議等					● 8/31 代表者会議		● 10/25 ブロック会議(名寄)		● 12/14 推進協議会		● 2/22 運営会議	● 3/22 ベスプロ表彰式	

ルート名称: 萌える天北オロロンルート	報告者: 留萌開発建設部	報告年月日: 2022/3/31
---------------------	--------------	------------------

	基本方針	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
	行政連絡会議の実施													会議体としての実施はせず、各自治体を個別訪問し、制度や取り組みを説明。

4. ルート運営行政連絡会議の取組状況及び課題

ルート名称: 萌える天北オロロンルート	報告者: 留萌開発建設部	報告年月: 2021/3/31
---------------------	--------------	-----------------

	ルート(エリア)運営活動計画方針	令和3年度の活動内容	活動実施日	実施機関	成果及び課題	総括	活動No
景観	愛着と誇りを持てる郷土の景観の保全と創出	「道北ルート連携フォトコンテスト」の作品巡回パネル展による広報活動 主催:シーニックバイウェイ道北ルート連携フォトコンテスト実行委員会	令和3年7月～令和4年1月 (通算展示期間)	留萌開発建設部、留萌市、小平町、羽幌町、遠別町、初山別村、天塩町	「道北ルート連携フォトコンテスト」応募作品の巡回パネル展をお勝手や萌(留萌市)、道の駅おびら鯉番屋(小平町)、道の駅サンセットプラザはぼろ(羽幌町)、道の駅ロマン街道☆しょさんべつ(初山別村)、道の駅えんべつ富士見(遠別町)、道の駅てしお(天塩町)、トナカイホワイトフェスタ(幌延町)にて開催し、広報活動に協力した。今後も、継続してルートの活動を広く周知することが必要。	地域景観の紹介や地域景観づくりの継続した取り組みが定着している。	A-2
		「道北ルート連携フォトコンテスト」の開催 主催:シーニックバイウェイ道北ルート連携フォトコンテスト実行委員会	令和3年6月1日～9月30日 (応募期間)	留萌開発建設部	シーニックバイウェイ道北ルート連携フォトコンテスト2020の開催にあたり、会議・審査会への参加及びフォトコンテストの活動周知に協力した。引き続き、作品の活用やフォトコンテスト開催に関する周知が必要。	今後も、効果的なPRや、取り組みを地域全体に展開できる体制作りを進めたい。	A-2
環境保全	地球に優しい「くらしぶり」のお手本づくりと促進	秀逸な道清掃プロジェクトでの清掃活動	令和3年10月4日	留萌開発建設部	秀逸な道選定候補区間での景観診断を支援した。清掃活動については当日悪天候のため中止した。選定区間申請に向けた継続的な支援が必要。	清掃活動の実施を通して、沿道の美化への認識を深めることができた。今後も継続的、発展的に実施できるように、協力したい。	A-1
		船場公園での除草・物販・啓発活動	悪天候のため中止	留萌開発建設部	道路協力団体として、除草・物販・啓発活動を実施する予定であったが悪天候のため中止した。活動時期を早めに設定するとともに、継続した活動が必要。		
レクリエーション	暮らしに根ざしたもてなしによる暖かい交流の魅力づくり	シーニックカフェの登録・カフェ連携の推進	通年	留萌開発建設部	活動を通して、ルート全体の魅力向上につなげるための仕組みづくりと意識共有が課題。9箇所のカフェには「オロロンライン・サイクリスト応援プロジェクト」で製作したサイクルラックを設置していることから、ルートによる維持管理に関する後方支援が今後必要。	シーニックカフェとの連携を通して、地域資源の磨き上げやより道スポットを紹介し、滞在型観光を後押しするとともに、セミナーの開催等を通して、地域内の人材育成も強化し、交流人口の拡大、観光振興を深めた	
		オロロンライン・サイクリスト応援プロジェクト	通年	留萌開発建設部	ライト層を含めた来訪サイクリスト層の拡大と来訪者数の増加を目的としたサイクリング受入環境の向上事業について助言等を行った。今後は当該プロジェクトや管内のサイクルツーリズムの取組との連携の中で、モデルルートの申請等自転車施策との連動を踏まえた助言を行っていく。	今後もサイクリスト受入環境向上に向け道路管理者者として協力できることは協力する。	A-3
全体	景観、食、環境保全、レクリエーション、歴史・文化全体の方針に関わる活動	萌える天北オロロンルートFacebookページのリンク	通年	留萌市、増毛町、小平町、苫前町、羽幌町、初山別村、遠別町、天塩町、幌延町、留萌開発建設部	ルートの認知度向上を目的として、ルートのFacebookページと留萌開発建設部及び各自治体のホームページをリンクして連携した広報活動を行った。	まちづくり、地域づくりをテーマとしたルートの様々な活動は、継続した取り組みにより地域内外に浸透している。今後も、Facebook等のツールを有効に活用し、ルート活動や地域資源のPR活動を進めたい。	